

日本産食品は安全です

1 大気や海水の汚染レベルは、問題ありません

(1) 日本国内の大気中の放射線量は、海外の主要都市とほぼ同じ！

会津若松市(福島県)

0.06 μ Sv/h

(2014年10月21日)

香港

0.08-0.15 μ Sv/h

(2014年10月20日)

シンガポール

0.10 μ Sv/h

(2014年10月20日)

【参考】東京(新宿)は、0.04 μ Sv/h
(2014年10月21日)

(出典：http://www.jnto.go.jp/eq/eng/04_recovery.htm#measure)

(2) 福島原発周辺の海水の放射性物質濃度を継続的に確認しています。
原発付近の海水中の放射性物質濃度は、WHOが飲料水として認める濃度(10Bq/L)
よりも低い(2014年9月現在)ものです。→[詳細情報](#)(クリック)

2 流通している食品の安全性は十分に確保されています

- ① 国際的な考え方に準拠した**基準値**で適切に管理しています。
- ② **厳格な体制**で検査しています。
- ③ **適確な出荷制限**により、基準値を超える食品の流通を防ぎます。
→ [詳細情報](#)(クリック)

◀日本の放射性セシウムの基準値▶

食品群	基準値※ (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
乳児用食品	50
一般食品	100

(※)コーデックス委員会の指標に基づいて設定。2012年4月に施行。

- 震災直後からこれまでに、90万件以上のモニタリング検査を実施。また、コメについては、2,200万点以上の全袋検査を実施。(2014年9月末現在)
- 基準値を超える割合は減少。現在(2014年4月～2014年8月)は**全体の0.2%**。
(かつ、農作物の超過例はさらにわずか。基準超のほとんどは、野生のキノコや鳥獣肉など。)
→ [最新情報](#)(クリック)
- 基準値を超える食品が見つかった場合は、**出荷制限措置等により流通することのないように措置**。

3 日本の対応は、国際機関からも「お墨付き」

IAEA(国際原子力機関)による評価 (2014年9月)

放射性物質による汚染食品に対するモニタリングや対応は適切に行われており、**フードチェーンは管理されている**。

http://www.iaea.org/newscenter/news/2014/infcirc_japan0914.pdf